

東京学芸大学附属図書館 所蔵資料を読む 絵双六①

# 新板娘庭訓出世双六

しんばんむすめていきんしゅつせすごろく

デジタルアーカイブ収録資料の中には、くずし字や変体仮名で本文が記されているものが数多くあります。こうしたものについて、読みやすい文字に改めた翻字資料を用意しました。原資料にどんなことが書かれているのか読みながら、遠い昔の学びの世界をのぞいてみませんか。

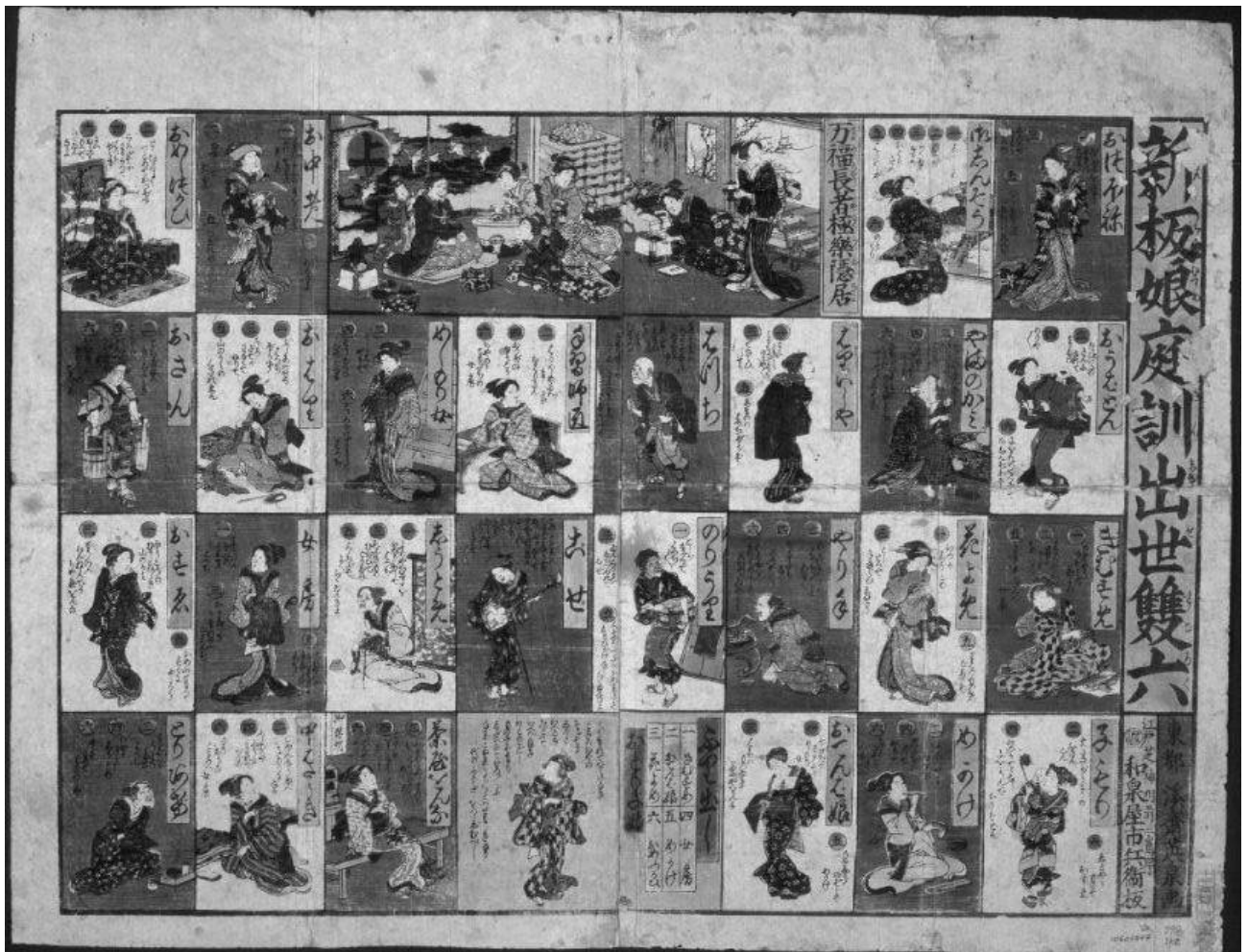
## 資料について

- 【画作者】 溪齋英泉画
- 【版元】 和泉屋市兵衛板
- 【出版年】 江戸後期
- 【寸法】 34 × 49 cm
- 【請求記号】 798 / I K E
- 【所在】 日本近代教育史資料
- 【双六の種類】 飛び双六

### 《飛び双六とは》

双六の各コマにさいころの目数に応じた移動先が示され、さいころを振った後、コマに書かれた内容を読み、出た目数に応じた移動先へ進み上りを目指します。コマにはさいころの一から六まで全ての目数について移動先が書かれているわけではありません。さいころを振り、移動先が書かれていない目数が出てしまった場合は、先に進むことができます。

双六の詳細な画像は  
附属図書館ホームページ  
でご覧くださいね。



(24)	(25)	(28)				(26)	(27)	(29)
(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)	
(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	
(2)	(3)	(4)	(1)		(5)	(6)	(7)	(30)

(3)

中はたらき

(2)

茶屋をんな

二 みもちあしければ「たこくへいつて」めしもり  
 四 はたらき」をはなにかけて「山のかみ  
 六 とし」とりて「やり」て

(1)

ふり出し

一 きむすめ 四 女房  
 二 おてんば娘 五 めかけ  
 三 花よめ 六 おめしつかひ  
 おどり子娘  
 人うまれてをさなき」ときはおやの「そだてに」ありと  
 いへとも」たとへて「いへば白き」いとのごとし」ものにそまり」  
 しだいにていろく」なることゆゑうかくとはせましきなり」  
 一代のふりだしをつゝしむべし

〔凡例〕

- ・ 漢字は全て現行の字体に改めました。
- ・ 片仮名・平仮名はそのまましました。
- ・ 清濁は原本の通りとしました。
- ・ 反復記号「ヽ・・ヽ」は原本通りとしました。
- ・ 破損のため判読不可能な箇所は推定して「」で示しました。
- ・ 清濁及び文字遣いは原本を再現しましたが、理解を助けるために適宜（ ）で漢字を併記した部分があります。
- ・ 「」 改行を示す符号です。

二「こぼんなう（子煩悩）ゆへ」子もりになる  
 四「ふしあはせ」ふうふ「わかれで」おんば  
 六さう「おう（相応）な」ところへ女房

とりあげ

二とりあげが「としより」すぎて「はつち  
 四口やか「ましいい」しうとめ  
 六金を「ためて」はりいしや

おてんば娘

一「そだちが」わるくて「めしもり」女  
 三はすは（蓮葉）「ものゆる」茶やをんな  
 五きりやう「のぞみで」めかけ

めかけ

二しあはせよく「女房  
 四川だちは「川で」やりて  
 六こゝろ「だてが」よくて「ごしんぞ

子もり

二火たきぼうこうの「おさん」どん  
 四いつかてゝなし「子をうんで」おうぼどん  
 六しとやか「もので」おすゑ

おすゑ

一ほうこうの「むかしこひしき」山のかみ  
 三どういふ「いんねんでか」ちや屋をんな

(9)

女房

五おめにとまつて「すぐに」中ろう  
 一りやうけん「ちがひの」ふしまつ「ではつち  
 三おとなしき「うまれゆへ」ごしんぞ  
 五げいゆへに「ごけになつて」手ならひ「しせう

(10)

しうとめ（姑）

一よめやむすこを「いびり出して」はつち  
 三ぞんきもの「むぢひ（無慈悲）で」とりあげ  
 五こゝろだてよく「らくゐんきよ

(11)

ごぜ（瞽女）

このところは「でることならず」めがふじゆうで「  
 りやうぢきん（療治金）をつかひ」おどり「子へ」かへり  
 あらたに「ふりだし」でなをし」く

(12)

のりうり（糊売り）

一「こしが」まがつて「はつち」く  
 三ゐんぐわ（因果）な「めがつぶれて」ごぜ  
 五人にやつた子がりつしん（立身）して「おもひがけなく  
 らくゐんきよ

(13)

やり手

二心がけあしく「はつちく」と「あるく  
 四かゝる子も「なく」のりやく  
 六ていしゆを「おいどの下に」しいて山のかみ

(19)

**手習師匠**  
二 はりいしやには「ましたが」おはりさん

(18)

**めしもり女(飯盛女)**  
二 としよつて「やりて  
四 そうどく(瘡毒)で「ごぜとなる  
六 こゝろがけがわるくて「はつち

(17)

**おはり**  
一 ふしあはせで「はつち」ぼうず  
三 こゝろ「だてが」わるくて「やりて  
五 山のかみの「くされゑん

(16)

**おさん**  
二 りちぎゆへ「なかばたらき  
四 てゝなしごで「おうば」どん」に「でる  
六 うち(氏)なくて「玉のこしの」ごしんぞ

(15)

**きむすめ(生娘)**  
一 きりやう(器量)のぞみで「花よめ  
二 よき人の「目に」かゝり「おめしつかひ  
五 よきゑんだん(縁談)で「女房

(14)

**花よめ**  
一 いつか「しうとめ  
三 とし」とつて「手ならひしせう  
五 りはつものゆへ「ごしんぞ

(24)

**おめしつかひ(お召使)**  
二 としひさしく「つとめておつぼね

(23)

**おうぼどん(お乳母どん)**  
二 たびくの「さん(産)に「なれて」とりあげ  
四 のりや「  
六 子をたいせつにして「ごしんぞになる

(22)

**やまのかみ(山の神)**  
二 女のくせに大酒のみ「さけのうへわるく」のちは「はつち」  
ぼうず  
四 ていしゆと「てんどくかせぎ」とりあげ  
六 きちがひじみた「かんしやくもち」てうど(ちようど)「  
やりてにもつてこい

(21)

**はりいしや(鍼医者)**  
一 わかい「ときから」みもちがわるく「のりや」  
三 てならひ「しせう  
五 しまいは「はつちぼうず

(20)

**はつち(鉢)**  
このところは「でることならず」ゑすはり「なり」されども「  
しまひ」には「そだ」てた「むすめが」しゆつせして「  
らくゑんきよさまより「こつりよく(合力)をうける

四 おつぼね「ほうこう  
六 ちやのみ「ともだちの」女房

四 こころだてが「わるくつて」はつち「ぼうず  
六 よい」お子を「もつて」「らくめん」きよ

**お中老**

一 しゆびよくおいとまをいたゞき「おいしやさまへ」花よめ  
二 出世して「おつぼね  
五 ごしんぞ  
六 らく」めんきよ

**御しんぞう（御新造）**

一 しようとめ  
二 はつち  
三 らくめん「きよ  
四 おはり」さん  
五 はりいしや  
六 のり「うり

**おつぼね**

一 おつぼねをさがり「手ならひ」しせう  
三 しあはせ「わるく」のりやく  
五 人がらもかくべつ「二度めのごしんぞ

まんふくちやうじやくめんきよ  
万福長者極楽隠居

**上り**

じんはんむすめ「いんしゆせす」らく  
新板娘庭訓出世雙六

(30) 東都 溪齋英泉画

江戸芝神明前三寫町

渡 和泉屋市兵衛板

作成 平成二十二年三月

翻字 東京学芸大学附属図書館 往来物・双六研究会

指導 笹本まり子（本学修士課程修了生）

監修 黒石陽子（本学人文社会科学系 日本語・日本文学研究講座教授）

※本稿を研究会の許可なく、他に転載・使用することを禁止します。

【東京学芸大学附属図書館 往来物・双六研究会とは】

図書館有志職員による往来物・絵双六の研究会。黒石陽子教授（本学人文社会科学系日本語・日本文学研究講座）、杉本紀子教諭（附属高等学校大泉校舎、附属国際中等教育学校）のご指導のもと、デジタルアーカイブ収録資料の本文について翻字を進めています。

（本稿は『ライぶらり』vol.35 no.4（2007.1）を再編集したものです）